

第1回佐賀市埋蔵文化財基本構想等検討委員会 指摘事項と対応方針

項目	主な意見	事務局の回答	その後の対応等
【基本構想素案】 背景について	収蔵品について、時代別のボリューム感は大体どれくらいか。	文化財資料館の収蔵品は、東名遺跡が5割程度、それ以外は弥生時代の出土品が傾向的に多い。	—
	今回議論の対象とする埋蔵文化財の範囲は？	基本的に埋もれた文化財。時代は旧石器から現代まで。	—
	文化財資料館への見学者は年間どれくらいか。	現状ではほとんどいない。 中学校の職場体験は受け入れている。	—
	復元や実測などの作業内容も公開するような施設を考えているのか。	埋蔵文化財の一連の仕事内容を見学者にも理解してもらえるような施設にしたい。	—
【基本構想素案】 基本方針について (施設の位置づけ・機能)	設置場所について具体的な構想があるのか。	現状では、肥前国庁跡もしくは東名遺跡の隣接地を考えている。	次回以降検討する。
	「歴史」「観光」「教育・学習」の中でも何を優先的に考えるのか。観光においてもどのような観光客をターゲットにするのか。ある程度目的を具体的にした構想を立てる必要がある。	—	機能的には文化財の調査と保存「歴史」にベースに置きながら、集客面においては地元を中心に学校教育と生涯学習「教育・学習」を優先的に捉え、その延長線上に県内外の観光客誘致「観光」があると考えている。
	機能的には従来の文化財の調査・保管というものをベースに置きながら、観光効果をアピールしていった方がスムーズにいくのではないか。	—	
	機能としては、埋蔵文化財を未来永劫に渡って保存することが最大の使命である。	—	
	熊本の震災を経験した後なので、文化財レスキューなどの拠点としての機能も求められる。	—	具体的な事例を調査した上で、今後の検討課題としたい。
	東名遺跡の出土品が国重要文化財に指定されれば、厳重な温湿度管理と紫外線を遮断する必要がある、その分だけでも相当なスペースが必要となる。	—	具体的な物量を第2回委員会で報告。
	機能的には、本当に勉強したい人が現地へ行くきっかけとなる情報・知識を提供する（ワンストップサービス）。文化財に興味がない人も訪れるような施設。	—	観光客誘致の基本的な機能と考えている。
施設をつくるのがゴールではなく、プロモーションにどれだけ力とお金をつぎ込むか、どれだけ期間にわたって計画的に行えるのかがポイントになってくる。	—	第4回委員会の事業活動計画の際に検討予定。	

項目	主な意見	事務局の回答	その後の対応等
【基本構想素案】 基本方針について (施設の位置づけ・機能)	すべての収蔵物について温湿度管理が必要なのか。	国重文指定品はもちろん温湿度管理が必要であるが、東名遺跡の場合は編みかごをはじめとした有機物資料が多いため、それらについてもある程度きちんとした管理が必要となる。	—
	限られた予算の中で、どの程度の施設ができるのか、何が必要なのか、もう少し絞り込む必要がある。	—	具体的な物量と必要な規模を第2回委員会で報告。
	展示と収蔵に最低限必要な面積を把握し、どの程度施設を大きく計画するか考えていった方が良い。	—	—
	どれくらいの施設をつくるかで、線引きをする必要があるが、出土品のランク付けはできないのか。	—	I種資料のランク付けによる物量を第2回委員会で報告。
	東名遺跡について、国史跡になってもっと発掘調査を進める必要性は出てこないのか。そうするともっと出土品が増えることになるのでは。	東名遺跡については、現状で発掘調査を行うのは不可能に近い。	—
	佐賀市にどれだけの埋蔵文化財、収蔵物があり、それらを保全するという任務があって、今回検討する施設がどのような役割を担うのかというところをまず検討しないとけない。	—	今後の調査による収蔵量の増加も見込んだ物量と収蔵に必要な規模を第2回委員会で報告。
	現状でどのくらいの収蔵量があって、これからどの程度増加が見込まれるか、調査もどのくらいあるのか、そういうデータがないと具体的な検討ができない。	—	機能的には「歴史」「観光」「教育・学習」の3つを兼ね備えた施設を目指す。